

## 米国

## 金融政策動向（2022年9月FOMC）

## 3会合連続の大幅利上げ、景気大幅減速の中でも引き締め継続へ

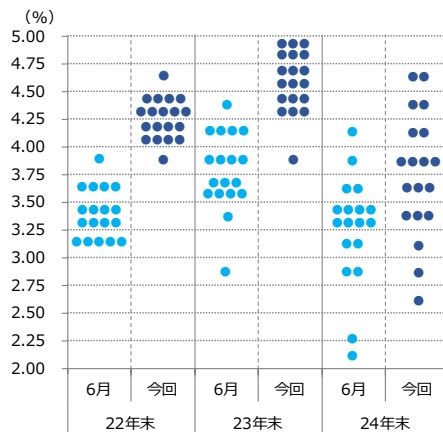
政策・経済センター  
田中高大  
03-6858-2717

## 1 FOMC参加者の経済見通し

		前回（6月）	今回
GDP成長率 （%）	22年	1.7	0.2
	23年	1.7	1.2
	24年	1.9	1.7
PCEインフレ率 （%）	22年	5.2	5.4
	23年	2.6	2.8
	24年	2.2	2.3
失業率 （%）	22年	3.7	3.8
	23年	3.9	4.4
	24年	4.1	4.4

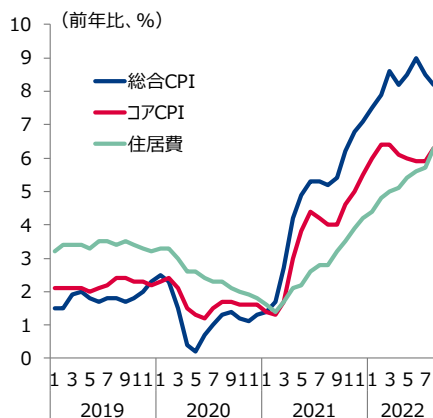
注：FOMC参加者の中央値。各委員の予測の集約であり、FRB公式としての予測ではない。出所：FRB

## 2 FOMC参加者の政策金利見通し



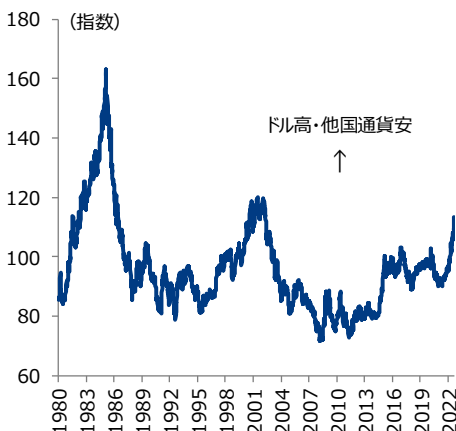
注：ドットは当該水準が政策金利のターゲットとして適切であると考えられるFOMC参加者の人数を示す。出所：FRB

## 3 消費者物価指数



出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

## 4 ドル指数



注：他国主要通貨に対するドルの強さを表す。週次ベース。  
出所：Bloombergより三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 決定事項・経済見通し

- 9月20-21日のFOMCの結果、3会合連続となる0.75%ptの政策金利引き上げを実施し、誘導水準を3.0-3.25%にすることが決定された。
- FOMC参加者の経済見通しでは、22・23年の成長率が大幅に下方修正、潜在成長率を大きく下回ると予想されている（図表1）。
- 政策金利見通しでは利上げ予想が引き締め方向にさらにシフト、金利水準見通しの中央値は22年末で4.4%、23年末で4.6%となった（図表2）。また、24年末は3.9%と、24年中の利下げが予想されているものの、ばらつきは大きい。
- パウエル議長は記者会見で、インフレ抑制を最重視する姿勢を再度コミットする一方、代償として経済の軟着陸が非常に困難であることを認めている。

## 今後の注目点

- 今回のFOMCの結果、金融引き締めが更に加速した。背景には、需給の逼迫が継続し、高インフレが収まらないことがある。8月のCPIは、エネルギー価格下落を背景に総合では伸びが低下したものの、労働市場の逼迫による高い賃金上昇率や住居費の伸び拡大を背景に、コアの伸びはむしろ加速している（図表3）。更に景気を冷やす必要があるという判断が、大幅な利上げ継続に繋がった。
- 既に住宅市場を中心に、利上げの影響は顕在化しているが、ドル高が急速に進んでいることの影響も懸念事項だ（図表4）。ドル高は輸入物価の低下によって米国のインフレ抑制には働くものの、グローバル企業や輸出企業にとっては重石となる。加えて、他国にとっては自国通貨安からインフレ圧力が高まるため、世界経済の下振れ要因となりうる。
- このように、大幅利上げの結果として、借入れコストの増加や金融市場の調整、世界経済の減速などを通じ、23年にかけて米国経済は大幅な減速を余儀なくされると見込む。もっとも、こうした懸念が高まるなかでも、当面はFRBはインフレ抑制を最重視し、23年初めまで段階的に利上げを継続、インフレ抑制が明確になるまで高金利を維持するだろう。